

抱え込まず、洗い流しましょう。そして、うれしき思ひ出を振り返り、出会えた幸せに感謝いたしましょう。少し時は要しても、必ず前向きになれる日がやつて参ります。先代チビ太が嚴冬の早朝に急逝した哀しみを乗り越えて楓之典君をお迎えした乳母が申すのですから、嘘はございません。

徒然なるまゝに、書物を傍らに由なし事を二年綴れば、あやしうこそ物狂ほしけれ。思ひ立ちて、猫神様詣でに出でます。

○ 楓之典君のつばやき

― ぶうには昨日も明日も、過去も未来もない也。高僧曰く、「即今当処自己」―

豆の町（ビーンタウン）から

こんにちは（第11回）

会員家族 住井 円香

■ アメリカの大学の試験期間

ボストン大学では、夏休み直前となる5月上旬、1週間に及ぶ期末試験期間が始まります。専攻によって

は羨ましいことに試験があまりなく、4月下旬の最後の授業が終わってしまえば実家に戻ったり旅行に出かけるという人もいますが、ほとんどの学生はファイナル試験に向けて夜遅くや早朝まで勉強を続けます。元々普段であつても、寮の共用スペースではゲームのマリオカートやビリヤードを楽しむなど、一晩中活動を続ける学生たちが少なくありません。しかし試験期間ともなれば、こうした共用スペースにも私語を慎むように求めるポスターが貼られ、ゲームの代わりに黙々と勉強を進める学生が集い、ピリピリとした空気が漂います。

私の周りでは、ずっと部屋で過ごしていると思が詰まるといった理由から、自室以外で勉強をする人も少なくありません。また、寮の共同生活では、ルームメイトがそれぞれある程度は部屋を独占できる時間が持てるようにするなど、プライバシーを重視するためなのか、はたまた傾向として積極的以外で活動する外向性が求められるからなのか、「ずっと部屋で過ごすルームメイトは好ましくない」とされる風潮もあつて、図書館などの共用スペースが人気になっていきます。

その人気にこたえるように、普段は深夜0時まで開館している図書館は、試験期間中になると24時間学生を受け入れ続けています。真偽のほどはわかりませんが、大学のオンライン掲示板では、図書館で寝泊まりした体験も書きこまれていました。その投稿者は何事もなかった、としています。夜遅くまで自室以外で勉強する時間が増えると、学内とはいえやはり安全にも気を付けたいため、せめて試験期間中だけでも、自分の部屋で気を遣わずに思い切り勉強できる雰囲気広まればいいなあと個人的には思っています。

また、ほとんど徹夜状態で乗り切ることになる期末試験期間は、どの学生も睡魔と格闘するため、必然的にエナジードリンクの人氣も高まります。今春も、試験期間中に図書館で勉強をしていると、あちらこちらから「プシュッ」と缶を開ける音が聞こえてきました。ごみ箱には、日本でも発売されているレッドブルやモンスターといった種類のほか、アメリカやヨーロッパで人氣の高いセシルシウスというエナジードリンクの色鮮やかな缶が次々に投げ捨てられています。

学内のコンビニに取りそろえられているエナジードリンクの種類も大変豊富です。ピーチとラズベリーを組み合わせたものから、抹茶味といったものまで、様々な味のエナジードリンクが販売されています。体への悪影響や若者のカフェイン中毒もメディアで指摘されているのですが、それでも良い成績を取ることにへの重圧から睡眠を削らざるを得ない試験期間の勉強には欠かせないお供となっているようです。

■ 世界中から受けられる夏のオンライン授業

新型コロナウイルスの流行から5年以上経った今も、かなりの企業でインターネットを利用した在宅勤務の併用が継続されているのと同様に、アメリカの大学でも教室で行われる授業を補うようにオンラインツールが活用されています。私の大学では、普段からブラックボードというオンラインのプラットフォームに各授業のページが用意されています。担当している教授によって使い方の違いはありますが、シラバスの他に指定された論文を読んだり、課題を提出したり、復習用に授業のス

ライドショーを閲覧できるような仕組みになっていました。

大学が用意している夏期講習、夏の授業では、いつにも増してブラックボードの存在感が大きくなります。この夏休み中の授業としては、世界中のどこからでも受けられるオンライン方式と、大学内でいつもと同じように教室で学ぶ方式の2種類があります。このどちらを選んでも同じ単位数が取得できるため、夏休み期間に研究活動などのために大学に残っても、帰省先の実家に戻っていても、授業を受けることができます。

これらは、早期に卒業することや、大学と提携していない場所への留学を考えている学生にとって特にメリットが大きい仕組みかもしれません。

かく言う私も、単位取得を早く進めるため、日本で夏のオンライン授業を受けることにしました。3か月半ある夏休みに用意されているものとしては、7週間ごとの短い学期が二つあり、授業を受けたい学生はどちらか一つの学期、もしくは両方の学期を受けることができます。ただし、この夏の期間に受けられる授業の数は限られていて、一つの学期につき3授業以上受講することは原則

禁じられていて、両方の学期をとる場合には最大限受講したとしても四つまでしか受けることはできないことになっています。また、オンライン授業の場合、科目により違いはあるものの、アメリカ東部時間の日中に行われる週に1〜3回ほどあるオンライン会議ツール・Zoomを使った授業に、時差やアルバイトなどでリアルタイムで出席できない学生のために、必ず録画映像がブラックボード上に掲載されています。

このブラックボードの掲載内容は、秋・春の通常の学期内では、教授によつて多少の差があります。例えば、昨年春学期に私が受講していた中級マクロ経済学のページでは、私の授業を担当していた教授は、実際の試験に似た模擬試験は載せていなかったのですが、他の教授のもとで同じコースを受けていた友人は、ブラックボード上に模擬試験や過去の試験問題が載っていたと言っていました。一方で、どうやら夏の授業では、科目ごとに掲載内容が統一されているようです。

そうした仕組みについて詳しい説明はなかったのですが、シラバスには実際に授業を教える教授のほかに、

夏の授業の開発者として、別の教授の情報も書かれていました。実際に授業を教える教授と、授業開発を行う教授を分けることによつて、教授ごとで教わる内容にほとんど違いがないように工夫しているのかもしれない。また、夏の授業はどうしても期間が短いため、教える教授側の負担を減らす目的も考えられます。なんとなく、シラバスに開発者の教授が写真付きで載っているのは、トマトなどの農作物がスパーや農協で売られるときに生産者の顔が一緒に展示されているのとどこか似ているかもなあ、と思つたりもしました。

また、授業の初回にはブラックボードの授業ごとのページの管理を担当するIT部門のスタッフが紹介され、何か提出時や試験の際にトラブルがあったときにこうした担当者に連絡するようにも伝えられます。普段は些細なことでも授業にまつわることであれば教授、もしくは教授を補助するティーチングアシスタント(TA)に質問を行うことが多いのですが、授業を教える教授以外のこうした教職員に、直接または間接的に関わることになるのはとても新鮮な感じを受けました。

夏休みを過ごしながら受けることになる、夏の授業ならではの特徴としては、学生一人ひとりが期日までには責任をもつて学習を進めていかなければならないという点です。私が受講している初級心理学の授業では、教科書以外にもブラックボードに載せられた授業開発者が書いた文書を週ごとに読み進めて、理解した内容を短いエッセイにまとめて、提出することになっています。もちろん毎週行われている1時間半の授業でも大まかな学習内容は網羅されるのですが、猛スピードでの説明となるため、細かい症例が省かれたり、時には時間内で収まりきらずに、次の授業に持ち越されることもあります。そうした環境では、自分から計画的に勉強せざるを得ないところがあり、思いがけず、夏の授業を選択したことが、自身のスケジュール管理の練習になるとも感じました。ただ、ソーシャルメディアという方法があるとはいえ、オンラインで同じ授業を受けている学生同士の交流は難しくなるため、普段のようにクラスメイトと気軽に課題を協力し合ったり、ときには愚痴がこぼせる環境が少し恋しいです。